

LIBRARY INFORMATION ライブラリー・インフォメーション

図書館利用マナーのご案内を  
リニューアルしました。



▲スタッフ手作りのピクトグラムで見やすくなりました。

- 荷物を置いたままにしない
- 貴重品はご自分で管理を
- 飲食はフタ付きの飲み物のみ
- 館内撮影禁止
- キータッチ音や音漏れに注意
- 通話は所定の場所で

皆さまのご理解とご協力をお願いします。

10月の展示情報 ※展示情報は変更する場合がございます。

**2F パールゾーン**  
『あの頃のオレたち』(～11/12)  
戦後間もない1947(昭和22)年から1949(昭和24)年に生まれた「団塊の世代」。約680万人と世代人口が多く、国の政策にも大きな影響力を持つ世代と言われています。そんな「団塊の世代」の歩んできた時代について振り返るとともに、今後の社会の課題について考えます。

**2F パールゾーン**  
三角台  
『三角関係』(～10/20) **NEW!**  
日比谷図書文化館は三角形のユニークな形をしています。三角形の建物にちなみ、これまでも『3』にまつわるさまざまな本を紹介してきました。今回は小説のテーマでも多く取り上げられてきた「三角関係」、また「三人組」、「三人兄弟」など三人からなる人間関係の物語を集めて展示します。

**3F ブルーゾーン**  
『青の本棚』(～10/15)  
「青」は「青春」のほか、若さ・未熟さを表す言葉に使われます。また、メーテルリンクの『青い鳥』のように幸福の象徴となる一方で「ブルー・マンデー」のように憂鬱な気持ちも表し、その印象は様々です。この展示では色彩だけでなく「青」から連想されるものに注目しました。

**3F グリーンゾーン**  
『装い～身にまとう表現～』(～2022/1/14) **NEW!**  
「装い」といっても着るものだけではなく、髪型、化粧、時計、身にまとう物全てがその人自身を表現する装いとなります。その装いをぎゅっと集めて、展示を見た方に新しい発見と、楽しんで終わりではなくリサイクル・リユースなどの取り組みについても知っていただけたらと思います。

展示 PICK UP

■3F エレベーターホール ～10月24日(日)

[日比谷カレッジ関連展示]

センス・オブ・ワンダーを探して

レイチェル・カーソン×福岡伸一×上遠恵子

協力:福岡伸一・上遠恵子・レイチェル・カーソン日本協会 関東フォーラム

レイチェル・カーソンの本の森ようこそ!

環境問題の古典『沈黙の春』(1962)で知られるカーソン(1907-1964)は晩年、姪の息子ロジャーと米国メイン州の海辺にある別荘で過ごし、地球の美しさや生命の輝き、未知なものにふれるよるこびを美しい文章で綴りました。その遺稿は『センス・オブ・ワンダー』(1965)となり、今でも多くの人に読み継がれています。



展示ではレイチェル・カーソンの生涯と『センス・オブ・ワンダー』の教えをメインに、本書を訳した上遠恵子さんの美しい日本語に囲まれて、カーソンとの出会いのエピソードやカーソンを追いかけて訪ねた地の思い出の品々が並びます。また一番好きな言葉はセンス・オブ・ワンダーと仰る福岡伸一さんは、ダーウィンやドリトル先生を追いかけ、ついに念願のガラパゴスに上陸。旅を記録した『生命海流』に登場する虫捕り網、トイレ事情、万博、亀倉雄策などに寄り道しながら、生命とは何か、一緒に考えてみませんか。そしてあなたのセンス・オブ・ワンダーを探してみてください。

- ▶ **センス・オブ・ワンダーお宝が集合!**
- ・福岡ハカセの標本箱からルリボシカミキリ
  - ・ハカセご愛用捕虫ネット(志賀昆虫普及社製)
  - ・上遠恵子さんの宝箱から砂時計やモナーク蝶幼虫の模型など

▶ **環境文学への誘い**  
自然環境と人間の共生をかいた本集合

▶ **過去からの警鐘**  
SDGsができるずっと前から警鐘をならしていた本集合

『センス・オブ・ワンダー』  
●レイチェル・カーソン 著  
●上遠恵子 訳  
●福岡伸一 他解説  
●川内 倫子 写真  
●新潮文庫  
●2021年

『生命海流 GALAPAGOS』  
●福岡伸一 著  
●朝日出版社  
●2021年

『13歳からのレイチェル・カーソン』  
●上遠恵子 監修  
●レイチェル・カーソン 日本協会 編  
●かもがわ出版  
●2021年

『海 その科学とロマンス』  
●レイチェル・カーソン 著  
●日高孝次 訳  
●文藝春秋社  
●1952年  
※展示のみ

▶▶▶館内では常時マスクをご着用ください。入館の際は、手指消毒・検温・入館票のご記入をお願いします。

千代田区立日比谷図書文化館 広報誌

■千代田区立日比谷図書文化館 開館10周年記念特別展

タイムトリップ江戸から東京へ

～資料で綴る千代田の風景～

今から400年前に遡る将軍徳川家康による江戸城築城および城下町整備に始まり、明治維新後も首府として維持されてきた多くの文化財が残されている千代田区。本展では郷土資料を中心に、文明開化

以降の歴史を紐解きながら、風景や名所の移り変わりを紹介します。江戸から東京へと風景が推移する中で歴史的な風景の変貌とともに今に残された歴史遺産の存在を感じてください。

**I 序章：千代田のまちのなりたち**  
江戸から東京への風景を示す俯瞰図や江戸図をもとに江戸のまちづくりの変遷を紹介。

**II 江戸城から皇居へ**  
天皇が入城した西の丸御殿の焼失後、明治21(1888)年に完成した明治宮殿の写真や錦絵によってその風景を示す。



**III 文明開化東京**  
明治20年代のニコライ堂展望写真による360°パノラマドームを中心に江戸の街並みを残しながら、近代化が進む風景を紹介。

**IV 名所を巡る旅**  
名所案内や絵はがきなどから、江戸・東京の観光を紹介する。

**V 千代田区水辺散歩**  
水路を巡らせたまちづくりを行い、百万人の大都市に発展を遂げた江戸。その背景となった水辺景観を紐解き、絵図や古写真により、江戸・東京の水辺風景や歴史的な橋梁を紹介する。



**VI 終章：まちの記憶を残す**  
震災、空襲、復興、再開。消えゆく歴史の記憶を、建造物の記録化や江戸城門を都市の中で甦らせる人々の努力から紹介。

2021年 10/22(金)～12/19(日)

※11月23日(火)以降一部展示替え

■閉室日:休館日 11月15日(月)、展示替え日 11月22日(月)  
■開室時間:月曜日～木曜日 10時～19時、金曜日 10時～20時、土曜日 10時～19時、日曜日・祝日 10時～17時(入室は閉室の30分前まで) ■会場:千代田区立日比谷図書文化館 1階 特別展示室 ■観覧料:一般 300円、大学・高校生 200円(千代田区民・中学生以下、障害者手帳などをお持ちの方および付き添いの方一名は無料) ※住所が確認できるもの、学生証、障害者手帳などをお持ちください。 ■主催:千代田区立日比谷図書文化館 ■協力:千代田区観光協会 ■監修:後藤宏樹(前日比谷図書文化館文化財事務室学芸員)

関連講座  
11/6(土) 「九段坂400年—絵図・写真でたどる境界の変遷—」  
講師:小藤田 正夫(NPO法人神田学会 理事)

11/13(土) 「江戸城三十六御門を現在に重ねて考える」  
講師:木下 栄三(建築家・画家・江戸文化歴史検定一級)

各回共通  
●時間:14:00～15:30(13:30開場) ●会場:日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ●定員:100名(事前申込順、定員に達し次第締切) ●費用:1000円(千代田区民500円(住所を確認できるものをお持ちください)) ●お申込み方法:ホームページの申込みフォーム、電話(03-3502-3340)のいずれかにて、①講座名、②お名前(ふりがな)、③電話番号をご連絡ください。

calendar 開館時間:平日10時～22時 ■土曜10時～19時 ■日祝10時～17時 ■休館日

2021年 10月							2021年 11月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1 2							
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30				

お問合せ先:千代田区立日比谷図書文化館 〒100-0012 千代田区日比谷公園1-4  
TEL:施設代表 03-3502-3340 図書総合カウンター 03-3502-3343  
URL:https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/

お知らせ  
新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴い、開館時間等、掲載されている内容について変更や中止となる場合があります。最新情報については、日比谷図書文化館(03-3502-3340)またはホームページ(https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/)にてご確認ください。ご不便をお掛けいたしますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

access (都営地下鉄) ●三田線「内幸町駅」A7出口 徒歩3分  
[東京メトロ] ●丸の内線 ●日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口 徒歩3分  
●千代田線「霞ヶ関駅」C4出口 徒歩3分 [JR]「新橋駅」徒歩10分  
※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

# 10・11月の講座

〈参加申込〉電話(03-3502-3340)またはホームページにて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。**千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。**

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

## 10/7 (木) 文豪たちの素顔—明治の名作はいかに生み出されたのか? 第2回 田山花袋と森鷗外—自然主義ブームをめぐる

講師:堀 啓子(東海大学教授)  
名作を生み出した明治の文豪たちは、実生活もまた多くのエピソードにあふれています。彼らが、なぜ、どんなタイミングで「あの名作」を生み出したのでしょうか? 「自然主義文学先駆者」の花袋と、「反自然主義の雄」鷗外。文学上の主義は異なれど、互いを認め、同等に渡り合った二人の親交と背景をみていきます。



(左)田山花袋  
『定本花袋全集』第1巻(臨川書店、1993年)  
(右)森鷗外  
(森鷗外記念館(津和野)所蔵)

- 日時:10月7日(木)14:00~15:30(13:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:100名 ■ 参加費:1000円

## 10/10 (日) 2020年代のフェミニズムに向けてメディア文化に見るジェンダーの問題

講師:田中 東子(大妻女子大学文学部教授)  
この講義では、2020年代のフェミニズムにとって、メディア文化におけるジェンダーの問題の何が課題であり、どのように分析していけばよいのか、具体的な題材を扱いながら、分かりやすく説明していく。受講後に、それまでとは世界がまるで違って見えるようになることが本講義の一番の目的である。



- 日時:10月10日(日)14:00~15:30(13:30開場)
  - 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
  - 定員:60名 ■ 参加費:1000円
- ※7月16日(金)開催予定を変更しました。

## 10/22 (金) 現代技術でよみがえる伝統木造建築

講師:木内 修(木内修建築設計事務所代表)  
穴八幡宮随神門や尾張大國霊神社儼追殿等の新築工事の事例を紹介しながら、建築基準法からも外された存在だった日本の伝統木造建築技術を科学的に解明し、現代技術として再構築した上で新たな伝統建築を創造する手法と未来への継承を考える。(企画・協力:NPO法人建築から社会に貢献する会)



尾張大國霊神社儼追殿内観正面  
(写真撮影:新建築社写真部)

- 日時:10月22日(金)17:00~19:00(16:30開場)
  - 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
  - 定員:100名 ■ 参加費:1000円
- ※2020年2月28日(金)開催予定を変更しました。

## 10/30 (土) 文化・芸術でひもとく世界の“いま”① 中国に何が起きているのか? —SFとサブカルチャーに見る世界の変化

講師:千野 拓政(早稲田大学 文学学術院教授)  
同時代の芸術や文化を通じて各国の世界情勢を知るセミナーシリーズを開始します。第1回目は中国。現在、中国では空前のSF文学ブームが起きています。日本でも劉慈欣著『三体』が話題になりました。果たしてなぜSFブームが起きているのか、若者文化を含む社会的背景をまじえてお話しします。



- 日時:10月30日(土)14:00~15:30(13:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:100名 ■ 参加費:1000円

劉慈欣『三体』(大森望、光吉さくら、ワン・チャイ訳、立原透耶監修/早川書房)

## 11/3 (水・祝) アスリートのメンタルヘルスを考える ~よわいはつよいプロジェクトからのメッセージ

講師:小塩 靖崇(国立精神・神経医療研究センター 研究員)  
アスリートを含め、誰もが心の不調を経験します。しかし、そういった心の様子を人に語ることは「よわい」人間がするものというイメージがあります。そのようなイメージを変えるべく始めたのが、よわいはつよいプロジェクトです。これまでの知見を紹介し、アスリートのメンタルヘルスを考える機会とします。



- 日時:11月3日(水・祝)14:00~15:30(13:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:100名 ■ 参加費:1000円

## 11/7 (日) 千代田区民講座 スロー動画で見る 昆虫たちの知られざる世界

講師:高嶋 清明(昆虫写真家)  
人の目では速すぎてとらえられない昆虫たちの様々な行動を、スロー動画でじっくり観察します。多種多様な飛翔スタイル、肉食昆虫の目にもとまらぬハンティング、鳴く虫たちの発音の秘密などなど、「身近な隣人」昆虫たちの知られざる世界に迫ります。(主催:NPO法人 神田雑学大学、共催:日比谷図書文化館)



- 日時:11月7日(日)14:00~15:30(13:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:60名 ■ 参加費:無料

千代田区民9月25日(土)より受付開始、区民以外は10月2日(土)より受付開始

## 11/8 (月)他 <日比谷オペラ塾>井上美香が語る短期集中講座(全2回) 栄光のミラノ・スカラ座の歴史

講師:井上 美香(音楽ライター、オペラ・キュレーター)  
イタリア・オペラの殿堂と呼ばれるミラノ・スカラ座。ロッシーニ、ベッリーニ、ドニゼッティ、ヴェルディ、プッチーニなどの名作オペラが数多く誕生し、またマリア・カラスをはじめとする世紀の名歌手たちが歌声を残しました。スカラ座の誕生から発展、そして歴史的な名演を紹介しながら、オペラの殿堂の秘密に迫ります。(主催:フェニーチェ劇場友の会、共催:日比谷図書文化館)

- 日時:前編「都市と劇場の理想的なつながり」  
11月8日(月)14:00~15:30(13:30開場)  
後編「殿堂に響いた名歌手たちの歌声」  
11月19日(金)14:00~15:30(13:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:各回60名 ■ 参加費:各回1500円

## 11/11 (木) 第16回ジャパンナレッジ講演会 お江戸ほーリー文化講座⑨ 江戸のくらし~時代劇&時代小説が3倍楽しくなる?! 衣食住の実態~

講師:堀口 菜純(歴史作家、タレント)  
最近ではお江戸系ユーチューバーとしても活躍する堀口氏。「江戸っ子は夜遊び大好きだった!?」「お江戸女子は超オシャレ!」「江戸に学ぶSDGsとは?」「じつは江戸っ子も、お肉、食べていました…」など、江戸庶民の想定外に面白い日常を解き明かします。(主催:株式会社ネットアドバンス、共催:日比谷図書文化館)



- 日時:11月11日(木)14:00~15:30(13:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:100名 ■ 参加費:1000円

## 11/13 (土) 日比谷図書文化館開館10周年記念ワークショップ 紙とボードで日比谷図書文化館をつくる(第2回)

講師:今村 仁美(アトリエ イマージュ代表)  
日比谷図書文化館開館10周年を記念し、建物の正面だけを切り取った「壁に掛ける建築模型」を手がける今村仁美氏による日比谷図書文化館の建築模型ワークショップを開催します。日比谷図書文化館の建物は独特な形状のため、今回は正面から見た建物の外観ではなく、講師が印象的に感じたアングルでの建築模型を紙とスチレンボードで制作します。日比谷図書文化館を手作りで再現してみましょう。※制作する模型は色味の違いはありますが、アングル、手順は第1回(10月23日)と同じです。



- 日時:11月13日(土)14:00~17:00(13:30開場)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員:20名 ※中学生以上の方にご参加いただけます。
- 参加費:2500円(材料費込み)
- 持ち物:カッティングマット(A4サイズ程度)、定規(できれば30cm、ない場合は15cm程度でも可)、カッターナイフ(事務作業用)、筆記用具

## 11/17 (水) 展覧会への入口講座Vol.31 千代田区内ミュージアム連携企画 東京・国立・近代・美術館で見る民藝の100年

講師:花井 久穂(東京国立近代美術館企画課主任研究員)  
東京国立近代美術館では、10月26日より「柳宗悦没後60年記念展 民藝の100年」が開催されます。100年経ってもなお注目が集まる「民藝」のモダンな「編集」手法と、ローカルなネットワークに注目した展覧会の見どころをお話しします。



はびろ  
《羽広鉄瓶》  
山形県 1934年頃 日本民藝館

- 日時:11月17日(水)18:00~19:30(17:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:100名
- 参加費:1000円(千代田区民 500円)

## 内田嘉吉文庫に見る 近代建築の父・辰野金吾と海を渡った建築家たち

東京駅を設計したことで知られる辰野金吾は建築教育にも尽力し、多くの後進を育てました。今回の企画展示では辰野金吾と彼に連なる建築家による日本統治期の台湾、満洲、朝鮮半島での建築物をパネルで紹介するとともに、建築模型作家・今村仁美氏制作の東京駅、台南庁庁舎の建築模型を展示します。



総督府専売局  
(「台湾拓殖画帖」/  
台湾拓殖画帖刊行会編/  
1918年)  
設計:森山松之助

- 期間:10月19日(火)~12月28日(火)
- 開室時間:平日 10:00~20:00  
土曜 10:00~18:00  
日曜・祝日 10:00~16:00
- 会場:4階 特別研究室
- 協力:今村 仁美(アトリエ イマージュ)

## Lunch Time Open Library 2021

日比谷公園で行われる「HIBIYA PARK SHIBAFU TERRACE」で、いつもは入ることのできない公園の芝生の上と青空の下、図書館のリサイクル本を配布するスペシャルなイベント。ランチタイムに自然の中で本との出合いを楽しみませんか?気に入った本は無料で持ち帰ることができます。

- ▶ 日時:10月1日(金)、2日(土) 11:00~14:30 ※雨天中止
- ▶ 場所:日比谷公園第2花壇



2020年の様子

From Chiyoda Public Library ■ 千代田区立図書館からのおしらせ

展示 **続きが気になる!!**

# 名作シリーズ

## ~ミステリー&時代小説~

◆ 会期:9月27日(月)~12月25日(土)

◆ 場所:千代田図書館9階 展示ウォール

「オール讀物」創刊90年。その歳月のなかで不朽の名作シリーズが数多く誕生しました。本展では、その中からミステリーと時代小説にスポットを当て、作品や作家にまつわるエピソード、著名人による作品についての想いなどを紹介するとともに、関連本など約180冊を展示・貸し出します。

**オール讀物**

**創刊90年**